

# 外 国 語

## 英 語（リーディング）

### 第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

#### 1 前 文

令和4年度大学入学共通テスト（以下「本テスト」という。）の「英語（リーディング）」の受験者は、本試験が480,763人（昨年度は476,174人）で、受験者全体の約98.6%（昨年度は約98.7%）に当たる。このことは、本テストが受験者及び学校関係者のみならず、多方面に与える影響が非常に大きいことを意味している。満点はリスニングと同じ100点で、本試験の平均点は61.80点であった。

本テストの問題作成方針としては、平成21年告示高等学校学習指導要領の中で、外国語の語彙や表現、文法、言語の働きなどの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにすることを目標としていることを踏まえて、これらの知識が活用できるかを評価するとしている。また、様々なテキストから概要や要点を把握する力や必要とする情報を読み取る力等を問うことをねらいとしている。

これらのことを踏まえ、本テストの問題について、14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

また、評価・分析するに当たり、以下の5つの資料を主に参考とした。

- (1) 高等学校学習指導要領解説（平成21年告示）外国語編・英語編
- (2) 令和4年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針
- (3) 「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」「英語表現Ⅰ」の検定教科書
- (4) 令和3年度大学入学共通テスト「英語（リーディング）」（共通テスト(1)）
- (5) 令和3年度大学入学共通テスト問題評価・分析委員会報告書（共通テスト(1)）

#### 2 内 容・範 囲

本テストは、受験者が高等学校での外国語の授業（「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」「英語表現Ⅰ」等）で学ぶ内容・範囲を網羅しており、高等学校段階での「読むこと」の領域の学習成果を測るものとしておおむね適切であった。日常的な話題から社会的な話題、アカデミックな内容まで幅広く扱われており、場面や状況も受験者が日常生活や日々の授業で経験する（または、大学で経験する可能性のある）ものに設定されていて、受験者になじみのあるものである。学習指導要領で求められる、「主体的・対話的で深い学び」を経験してきた受験者が、高等学校段階で学習した語彙や文法の正しい知識を基に、目的に応じて英文を読み、思考力・判断力・表現力等を発揮しながら概要や要点を捉えたり話の流れを整理したりする必要のある内容となっている。

第1問A ブラジルという珍しさはあるが、料理やフルーツというテーマは日常生活に関連した題材で良い。設問において求められている情報が何であるかを判断し、箇条書きで記された各フルーツの特徴を正しく捉える力が問われている。

第1問B ウェブサイトを読むという設定は日常的に起こりうる状況を扱っており良い。また、こ

のようなコンテストには参加費が必要になるという異文化の一部を感じられる部分も興味深い。必要な情報を的確に読み取り判断する力が問われている。

第2問A 海外の大学の夏季プログラム参加中に、図書館に関する情報が記された配布物を読む問題である。過去の学生からのコメントが記載されており、図書館の概要からではなく、その学生のコメントから図書館のfactを見極める設問もある。opinionかfactかを意識しながら読み進める必要があり、書かれた情報を受験者が当事者として置かれた設定において正しく理解し判断する力が問われている。

第2問B 世界と日本のペット事情に関して留学生の書いた記事で、内容は受験者にもなじみがある。パッセージの大意を問う問題から詳細な情報を把握する問題まで出題されており、必要な情報を的確に捉える力が問われている。

第3問A 日本文化が海外でどのように捉えられているかを調べるといふ状況設定は興味深い。ブログにカメラ等で撮影したチラシを文章とともに掲載するといふAuthenticity（本物らしさ）は、受験者にもなじみのあるものである。情報を整理するためにチラシを利用しながら英文を読み、大意を把握する力が問われている。

第3問B 24時間以内に3つの山に登るといふイベントに挑戦した人物の体験記を読む問題であり、受験者も楽しんで読み進められる内容である。出来事を時系列に並べ替えたり、計画どおりに進行しなかった理由を答えたりする問題などがあり、全体の流れと同時に細かな情報も把握する力が問われている。

第4問 2人の大学生のブログを読んで答える問題である。場面及び状況の設定は、受験者が将来経験しうるものである。2人のブログでは、それぞれ異なる観点から家電の購入先を薦めており、大意の把握と同時に詳細な情報や条件にも注意して英文を読む必要がある。

第5問 プレゼンテーションのメモを作成するために偉人の伝記を読んで答える問題である。テレビを発明した若者が大手企業との特許競争を戦った物語で、受験者が興味を持って読むことができる内容である。英文を読みながら、何がキーとなる出来事であるかを判断し、それらを時系列で整理しながら概要を理解する力が問われている。

第6問A 人間の体内時計（朝型と夜型）に関する記事を読む問題である。テーマは受験者になじみがあり、興味深く読むことができる内容である。限られた時間内に英文を論理的に理解し、主旨が何なのかを考え判断する力が問われている。

第6問B 海外のプラスチックのリサイクルマークの意味とそれらが示す素材に関する説明を読む問題である。限られた時間内に文章全体の大意を把握するとともに、詳細な情報を組み合わせて判断する力が問われている。

### 3 分量・程度

問題作成方針に示された、「様々なテキストから概要や要点を把握する力や必要とする情報を読み取る力等を問うことをねらいとする」試験となるよう、全体的に「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」の検定教科書内で用いられる英文の分量と同程度の問題文を扱っている。英文自体は、高等学校段階で学習した語彙や文法の正しい知識があれば読みやすいものであるが、限られた時間内で詳細な読み取りが求められ、やや難易度が上がっている設問もある。全体的には大問ごとに段階的な難易度の設定がなされ、幅広い受験者に対応する難易度の問題がバランス良く配置されている。

第1問A 約150語で2つの設問。表にフルーツの特徴が箇条書きで整理されており、選択肢の該当部分をスキッピングしやすく、平易な問題である。

- 第1問B 約270語で3つの設問。見出しを手掛かりにしていけば、手順や条件などの情報を探し出すことができる。設問で求められている内容を理解して、資料に合致する選択肢を選ぶことが必要であり、分量も適切な問題である。
- 第2問A 約320語で5つの設問。図書館の利用案内として読み取るべき情報量は適切であったが、チラシとしてのテキスト量はやや多い印象である。問5は、利用者の声に基づくfactを選ぶ必要がある、やや混乱した受験者がいたと予想される。
- 第2問B 約260語で5つの設問。資料から必要な情報を適切に読み取ることが求められる。分量も難易度も標準的な問題である。問4は、本文中にイギリス英語のflatsが使われている。単語そのものになじみのなさを感じた受験者もいたかもしれないが、設問内ではパラフレーズされ、住居の一形態であると理解できるよう工夫がされている。
- 第3問A 約250語で2つの設問。書き手の行動と感情を適切に読み取ることが求められる。ブログ内に掲載されたチラシのイラストにより、ブログの本文を読み取りやすくする工夫が施されていたものの、イラスト情報のみでは解答できない問題設定である。全体的なテキストの分量も難易度も標準的だが、設問が2問という設定は少ないと思われる。
- 第3問B 約400語で3つの設問。地図が読み取りの理解を助ける手立てとなっており、出来事を時系列で整理しやすく、分量や難易度も標準的である。見開きで完結する問題構成は受験者にとって取り組みやすい。
- 第4問 約530語で5つの設問。問3の、2つのブログに共通する発信者の主張を選ぶ問題や、問5の、条件に合う購入先を選ぶ問題は、情報の整理と統合、また簡単な計算も必要となり、やや負荷が高く、全体的に難しい。
- 第5問 約710語で5つの設問。読み取る記事の英文の難易度は標準的だが、発表用資料に合致するように記事内の情報を丁寧に見つけ出す必要があり、問3の並べ替えではダミーの選択肢が含まれるなど、やや難しい。
- 第6問A 約790語で4つの設問。本文の記事の英文の難易度は標準的だが、要約資料は本文の記事全体から整理し直した構成となっているため、本文の記事の対応部分を吟味して探す必要があり、やや難しい。
- 第6問B 約700語で3つの設問。本文には科学的な記述があるがその内容は一般的で、テキスト自体の難易度は標準的である。ただし、問3については、本文全体から情報を検索することが求められる、試験後半の時間がない中では負担が大きかったことが予想される。

#### 4 表現・形式

グローバル社会でのコミュニケーションを想定し、イギリス英語による表記や英語を母国語としない国や地域の話題を含めながら、高等学校の学習の過程を意識した適切な場面設定がなされている。文章表現は、学習指導要領に示された範囲内で、それぞれの設定に応じた適切なものとなっている。設問には受験者自身を“You”と表記するなど、コミュニケーションの当事者としての立場が明確にされており、知識を実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できるかを問う問題となっている。また、図や表は、本文や資料の中でおおむね効果的に使用されている。

第1問A 高校での部活動（the international club）の調べ学習で使用される、ブラジル料理に使われるフルーツについて調べる場面で、それらの特徴を捉える問題が設定されている。平易な英文で書かれており、必要な情報も把握しやすい。ポルトガル語の表記が使用されているが、問題を解く上で支障はない。

## 第1問B

動物園で生まれたキリンの赤ちゃんの名前をつけるコンテストを案内するウェブサイトを見て参加方法や入賞時の特典について把握するという場面設定である。情報は明確に整理され、英文も平易で取り組みやすい。

第2問A イギリスの大学の夏季プログラムへの参加中に、図書館の利用案内を読むという場面設定である。ground floorなどのイギリス英語が使用されているが、特に混乱が生じることはない。利用案内としては文字情報が多いため、やや本物らしさに欠ける印象がある。

第2問B 学校の英字新聞の編集者として、イギリスからの留学生が書いたペット事情についての記事を読むという場面設定である。この問題にもイギリス英語が使用されている。調べたことを新聞などの記事にまとめる活動の参考にできる良い題材である。

第3問A イギリスのブロガーが投稿した、日本文化を紹介するイベントについての記事を読むという場面設定である。チラシは、日本文化になじみのない読者が読むことを想定した上でブログの本物らしさを意識したものであると思われるが、共通テストの問題としてはやや冗長な感じがし、また文章とチラシの両方から情報を把握する必要がある印象も与える。読む英語もある程度の量があるため、設問数を増やしてもよいように思われる。

第3問B イギリスの3つの山に24時間以内に登頂するチャレンジについての雑誌の記事を読み、概要をとらえる問題である。受験者にはなじみが薄いと思われるイギリス英語のlearntが設問で使われている。簡単な地図を掲載する配慮がなされており、様々な出来事が起こるチャレンジの行程がイメージしやすかったであろう。

第4問 アメリカで大学生活を始めるために家電購入に関する2つのブログを読んで購入場所を決めるという場面設定である。販売店による直接の宣伝ではなく、書き手の判断や主張を表すブログという表現方法の素材文である。絵や表は分かりやすく、見やすくまとめられている。

第5問 偉大な発明家について英語でプレゼンテーションを行うためのメモを作成するという、高校の授業を反映した適切な場面設定である。文章の流れが自然なものであるため、読み進める上で特に支障のない適切な文章表現である。このような、目的に応じた読み方を受験者に求める問題は、高等学校の指導の参考になるものである。

第6問A 人の体内時計がどのように決まるか、また体内時計が人に与える影響に関する内容を読み、要点をまとめるという場面設定である。要約のメモの形式が、語彙の確認から始まって、要点、詳細という流れになっており、まとめ方のアイデアを与えてくれるものになっている。やや難しい語彙が使用されているが、前後関係から推測できるよう配慮されており、読み進める上で支障のない、適切な文章表現がなされている。

第6問B 科学プレゼンテーション大会で環境保護に関する発表を行う準備として、プラスチックのリサイクル表示についての資料を読んでポスターを作成する場面設定である。環境問題を切り口として、教科横断的な内容を扱っている点が評価できる。分量はやや多いが難解な文章表現はなく、標準的なものである。

## 5 ま と め (総括的な評価)

全体として、共通テスト問題作成方針に則し、グローバル社会で活躍する人材の育成を目指した英語教育改革の方向性を反映しており、外国語の語彙や表現、文法、言語の働きなどの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて活用できるかを評価するテストとして適切であったといえる。様々なテキストから概要や要点を把握したり、必要な情報を読み取ったりする問題に加え、推測したり事実と意見を区別して理解したりする問題、視覚情報を参考に

して概要や展開を把握する問題、視点の異なる複数の情報から論理の展開や書き手の意図を把握する問題、情報を適切に整理したり要約したりする問題など、英語を実際に使う場面により近い設定において、発展的に思考して判断する力を問う問題となっている。

学習指導要領で目指す思考力・判断力・表現力等を育成するために、日々の授業において、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などをどのように設定して言語活動を行えばよいかの具体的な例が、本テストの中で示されているように感じられ、授業に与える影響は大きい。特に、第5問や第6問では、授業でプレゼンテーションを行う際に、読んだ記事からの情報などをどのようにメモやポスターにまとめたら良いかのひとつのモデルが示されており、授業づくりの参考になる。

題材としては、料理や動物、日本文化といった受験者にとって身近なものから、人間、地理、科学、環境といった社会的・科学的なものまで幅広い内容が取り扱われており、ウェブサイトやブログ、雑誌など「本物らしさ」を意識した素材から得られた情報に基づき、問題が作成されている。このことは、高等学校における教科横断的な学びや課題探究型学習が反映されているだけでなく、教科の本質に照らし、必然性のある形で出題されているといえる。また、場面設定に応じてイギリス英語の表記が使用されていることも、コミュニケーションの手段として世界で広く使われている英語の多様性を表しているといえよう。これらのことから、本テストは、高校での学びに配慮し、大学入学者選抜の資料とするための問題作成の工夫が十分になされたものと評価できる。

この2年間の学校現場は、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、生徒の学びを保障しようと奮闘する日々であった。特に、実際の言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指す英語教育においては、対面による直接のやり取りができない厳しい状況下でも、学習指導要領が目指す意味のあるやり取りによる学びを工夫し続け、コミュニケーションできる喜びをかみしめた2年間でもあった。新学習指導要領の実施を目前に控え、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が求められているが、どのように困難な状況であっても、他者とのコミュニケーションを大切にしながら、協働して乗り越えていける力を、英語教育の中でも育てていきたい。そのような意味においても、本テストが英語を読んで、情報を整理しながら理解する力を測るものであると同時に、学習指導要領で示される知識・技能が、実際のコミュニケーションの場面において、生きて働くものとなっているかをより適切に測るものとなることを期待する。そして、学校現場で大切にしている意味のあるやり取りからうまれる真に深い学びの成果を測るものとなることを願う。

出題内容				設問数		配点		
問題番号	中間	解答番号	出題内容			1問当たりの配点	配点	
第1問	A	1-2	情報の読み取り	2	5	2	4	10
	B	3-5	情報の読み取り	3		2	6	
第2問	A	6-10	情報の整理	5	10	2	10	20
	B	11-15	要点の把握	5		2	10	
第3問	A	16-17	要点の把握	2	5	3*	6	15
	B	18-21	時系列での内容把握	1		3*	3*	
		22-23	要点の把握	2		3	6	
第4問		24-26	意図の読み取り	3	5	3	9	16
		27	要点の把握	1		3	3	
		28-29	条件に基づく情報の読み取り	1		2	4	
第5問		30	伝記の概要の理解	1	5	3	6	15
		31-32	伝記の要点把握	1		3*	3*	
		33-36	伝記の展開把握	1		3*	3*	
		37-38	伝記の全体理解	2		3	3	
第6問	A	39-41	内容の論理的理解	3	4	3	12	24
		42-43	要点の把握	1		3	3*	
	B	44	情報の要約	1	3	3	3	
		45-46	正確な内容理解	1		3	6	
		47-48	詳細な情報の読み取り	1		3*	3*	
			合計	37	平均点	61.80 / 100		

\*は、全部正解の場合のみ点が与えられる。